

令和6・7年度 上益城郡教育委員会連絡協議会指定
木山中学校区「学力向上」研究発表会

研究テーマ

夢実現！小中連携を踏まえた教育イノベーションへの挑戦
～限らない教師の挑戦（Endless Teacher's Challenge）～

児童生徒の主体的な学びへの転換
～サンタの学習指導過程の実践を通して～

共通実践事項

主体的な学びへの転換

- 1 単元や各授業における目標のイメージ化を図り、行動目標を設定する。
- 2 児童生徒が「自分の考えを、自分の言葉で、分かりやすく伝える力」を鍛える。
- 3 読む発表から、資料等を活用して自分の考えを伝える発表への転換を図る。
- 4 セルフトークの時間を設定し、資料やKWを使い分かりやすく伝える練習をする。
- 5 チャレンジタイムの時間を設定し、行動目標に対する個々の学習成果を確かめる。

サンタの学習指導過程

（**た**のしく、**た**めになり、**た**めしてみたいくなる授業）

《 **自分の考えを 自分の言葉で 分かりやすく伝える！** 》

- 1 導入で「本時で何ができるようになればよいか」を明確に伝え、板書する。
- 2 学習活動では、①活動のねらい ②手順 ③留意点をきちんと理解させる。
- 3 発問後、自力解決の場を必ず設定し、自分の考えを自分の言葉でまとめさせる。
- 4 共同解決の場を設け、本時の目標に向かって学び合い高め合う授業を展開する。
- 5 チャレンジタイム等を設定して、本時の目標に対する評価を具体的に実施する。

事前にチェック！

「目標—中心的学習活動—まとめ—評価」に整合性はあるかな？

「授業における児童生徒の思考の流れ」はスムーズかな？

指導過程を頭に入れ、児童生徒を見て授業ができるかな？

「授業に必要な基礎・基本」がどれだけ身に付いているかな？



「表情・声の抑揚」、「絵・グラフ等の活用」、「話の筋道」は考慮されているかな？

『板書型学習案』

●●小

学校

6

学年

●

組

教科

社会

単元

縄文のむらから古墳のくにへ

本時

(5 / 7)

授業者

教諭

●●●●

]

単元終了時の児童の姿

縄文時代から古墳時代までのくらしの変化を説明することができたり、国の成り立ちに関心をもったりする児童

本時の目標

古墳の大きさや出土品などの様子から、くまびつを学んだ王や豪族たちの力の大きさを理解し、古墳がつくられた理由を説明できる。

研究の視点①主体的な学びを促す学習活動の工夫

仁徳天皇陵古墳の航空写真や動画を提示することにより、古墳に関する問いを引き出す。

研究の視点②協働的な学びを促す学習活動の工夫

古墳に関する資料をもとに、「古墳は、なぜ、つくられたのか?」を話し合わせることにし、本時の目標に迫ることができるようにする。

研究の視点③確かな学びに繋げる終末の工夫

児童の発言をもとにまとめたり、チャレンジ問題に取り組んだりさせる。

学習活動の流れ

(1) 資料「仁徳天皇陵古墳(大仙古墳)」を見て、疑問を交流し、本時の目標を設定する。

(2) タブレットで配付された各種資料を活用して、「古墳がどのようなものか?」について調べる。

(3) 調べたことを交流したり、「古墳は、なぜ、つくられたのか?」について話し合ったりする。

(4) キーワードを使って、自分の言葉で学習内容をまとめたり、振り返りをしたりする。

板書案

縄文のむらから古墳のくにへ

学習問題

古墳は、何のために、どのようにしてつくられたのだろう。

【視点①】

ICT①
動画を提示し、問いを引き出す。

写真

仁徳天皇陵古墳(大仙古墳)

1人学び

交流

イラスト

イラスト

◇工事期間 15年8ヵ月
◇動員人数 のべ680万7千人
※1ヵ月25日、1日8時間働いたとして計算
◇総費用 796億円
◇はにわ製作費 60億5千万円
※墓室のお金の価値で計算◇工事期間 15年8ヵ月
◇動員人数 のべ680万7千人
※1ヵ月25日、1日8時間働いたとして計算
◇総費用 796億円
◇はにわ製作費 60億5千万円
※墓室のお金の価値で計算

ICT②

資料をタブレットで配付し、一人学びや考えの交流時に活用させる。

・多くの年月、人数、費用をかけてつくられた。
・周り…はにわ、石室…貴重な物が納められた。

チャレンジ問題

ICT③

タブレットで配付し、取り組ませる。

まとめ

古墳は、どのようにしてつくられたのか、また、なぜつくられたのかを説明することができる。

古墳は、多くの費用や人数をかけてつくられた。さらに、古墳は王や豪族が、自分の力の大きさを示すためにつくられた。

【視点②】

【※児童の発言を板書する】

・豪華なお墓をつくりたかったから。
・貴重な物を残しておきたかったから。
・大きな古墳をつくれるだけのお金をもっていたから。
・大きな古墳をつくらせることで、自分の力の大きさを示したかったから。

【視点③】

サンの授業事例

教科 社会

単元 縄文のむらから古墳のくにへ

本時 5 / 7

○ 本時の目標：古墳の大きさや出土品などの様子から、くにづくりを進めた王や豪族たちの力の大きさを理解し、古墳がつくられた理由を説明できる。

学習の流れ

学 習 活 動

児童の反応・留意点

問

サンの学習指導過程 1・2

古墳は、何のために、どのようにして、つくられたのだろう。

写真

動画を見て気づいたこと出し合おう

音声情報を統制するなど見せ方を工夫して動画資料を提示し、古墳に関する問いを引き出す。

- ・これは何かな
- ・古墳ってこんな形なんだ
- ・ずいぶん大きいなあ
- ・私たちの学校よりも広いよ
- ・はにわもあるね



どの資料を選んで考えようかな

めあて

㊦ 古墳は、どのようにしてつくられたのか。また、なぜつくられたのかを説明することができる。

古墳はどうやってつくられたのだろうか

3つの資料から選んで自分なりに解決してみよう

ロイロノートを使って自分の考えをまとめてみよう

こんな大きな古墳をどうやって作ったのかな？

自力解決

サンの学習指導過程 3・4

【資料A】

イラスト

人々が古墳をつくる想像図から考えた。

たくさんの人手と時間が必要だったんだ

【資料B】

◇工事期間 15年8カ月
◇動員人数 のべ680万7千人
※1カ月25日、1日8時間働いたとして計算
◇総費用 796億円
◇はにわ製作費 60億5千万円
※現在のお金の価値で計算

工事期間や労働力等から考えた。

【資料C】

イラスト

石室の様子から考えた。

はにわや宝物が
おいてあるぞ

「セルフトーク」

「自分の考えを相手に伝えること」を意識させ、分かりやすい発表を心がけさせる。



分かりやすく伝わったかな？
【ペアトーク】【共同解決】

共同解決

自分の考えを、他の人に分かりやすく発表しよう

多くの年月、人数、費用をかけてつくられた。周りには埴輪、貴重な物が納められた石室がある。

古墳をつくるだけのお金があった

豪華な墓をつくりたかった

貴重な物を残したかった

なぜ古墳がつくられたのだろう？

大きな古墳をつくらせることで、自分の力の大きさを示したかったから。



イラスト

まとめ

キーワードを使ってまとめてみよう

㊦ 古墳は、多くの費用や人数をかけてつくられた。また、古墳は王や豪族が、自分の権力の大きさを示すためにつくられた。

《 評 価 》

必要な情報を集め、読み取り、古墳の規模や出土品、つくられた理由等を説明している。

チャレンジ

サンタ 5

【チャレンジ問題】

古墳をつくった人物は、大きな権力を持っていたと考えられています。なぜ、そう考えられているのか、右の絵を使って自分の言葉で説明しましょう。

イラスト

とても大きな古墳で、沢山の人が働いているからなあ。工事の技術も優れているから。

津森小の取組

津森小学校の授業改善への取組

①個人研究テーマの設定

②授業参観シートで検証

③授業の振り返り

教師の授業改善への主体性をもたせるため、個人研究テーマを設定



		見る視点		
授業参観シート		①教科の流れ (発問・指示・説明) ・デモンストレーションから本時のめあてを掴ませる。	②児童の主体的な学び、対話的な学び、深い学び、自ららしさの発揮 「つかやう・書く・せんぷろく・話す・表現・チャレンジタイム」 ・ペアワークでの中間評価で個別指導、全体指導も進めて、たくさん練習もさせる。	③教師のあり方（切り返し・問い返し・表情・声・目線・身振り・移動など）
時間の流れ	序盤	おもしろいパノラマ作り → パノラマ作り 教師がおもしろい授業に言わせたい パノラマ作り	④ 図表にしたいこと おもしろい授業にできる	ロウ先生と 会話をし パノラマ作り
	中盤	ペアワーク ペアワーク ペアワーク	セルフワークをペアワーク ペアワーク	中間評価 → 図表の共有 リアクションカード 指導
	終盤	チャレンジタイム ペアワーク ペアワーク ペアワーク	リアクション カード ペアワーク ペアワーク	5分間のペアワーク ペアワーク リアクションカード 指導

職員が研究授業を自身の学びにするために、研究会の後に振り返りカードを作成することで、次時の授業改善へとつなげた

児童の主体的な学びの姿を写真やビデオとして残し、検証することが可能に

益城中央小の取組

年間を通じた授業改善

①教科部会（国・算・社・英）

②教師個人の実践事項の設定

③実践・検証・改善

④実践報告会



分かりやすく伝える

木山中の取組

授業研究部

授業者が個別の重点取組事項を作成して日々の授業に臨む。

学習環境部

授業だけでなく、様々な場面で伝え合う場面を設定

学力充実部

基礎的・基本的な学習内容の定着を図る場の設定

ステップ① 授業の振り返りをしよう

「サンタの授業」実践上のポイント10 チェックシート			
学校名	授業日	授業者	評価者
学年	時	教員名	評価者
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29	30	31	32
33	34	35	36
37	38	39	40
41	42	43	44
45	46	47	48
49	50	51	52
53	54	55	56
57	58	59	60
61	62	63	64
65	66	67	68
69	70	71	72
73	74	75	76
77	78	79	80
81	82	83	84
85	86	87	88
89	90	91	92
93	94	95	96
97	98	99	100



チェックシートを参考に、授業者が成果指標やゴールの姿を決め、1学期の具体的な取組を設定した。

帰りの会での1分間スピーチや集会活動等で、様々な意見に出会い、さらに自分の考えを深めている。

力を試す学習オリンピックに向けて、自分たちで意欲的に学習する姿が増えてきた。

研究の成果

教師の感想から

◎各学校で組織的な取組が進んでいます！！

- 教科書やノート、タブレット等を使って根拠を示しながら、自分の考えを伝えるように継続的に声をかけ、実践することで、**自分の言葉で伝える力が高まった**と実感している。
- 今まで「伝える発表」ではなく、書いたことを「読む発表」で進めてきていたが、益城町に異動してきて、**自分の言葉で「伝える発表」を意識したことで、子供たち同士も考えが深まり合い、学びへの自信につながった**と感じている。
- 本研究に取り組むことで、**児童が主体的に学んでいる姿を見る**ことができた。授業のデザインが明確になっていることで、**教師も児童も見通しをもてる**ようになってきた。
- 教師の意識と取組の継続**によって、**児童も変容するのだ**と実感した。
- 英語部会では、実際に**授業参観**に行ったり、**情報交換会**を行ったりでき、**授業改善に努める**ことができた。

(木山中学校区の職員アンケートより)

日常の取組から

◎「読む発表から伝える発表へ」を目指しています！！

集会活動



発表を聞いて感じたことや考えたことを、自分の言葉で発表者に返します。

感想を交流することで、自分と違う意見や考えに出会い、さらに自分の考えを深めることができます。



1分間スピーチ



テーマを選んで話します。内容が浮かばない時は、「スピーチの型」を活用します。



小・中連携の取組から

◎「英語が好き・分かる」児童が増えてきています！！



先生方から英語で質問や感想が

教師の取組

- 本単元の主な表現に加えて、既習事項のどんな表現が使えるかを授業で考えたり、友達とのやり取りから、さらに良い表現に気付かせたりすることで、発表内容がより良いものとなっていった。
- 授業で数回タブレットに録音させることで、教師は児童の課題を適切に把握することができ、全体指導や個別指導に生かすことができた。
- 「友達や中学校の先生に伝える」といったゴールを設定することにより、児童は「何を、どのようにして伝えようか」と主体的に考えて取り組んでいた。大勢の人の前に立って発表することが苦手な児童が、全体に伝わるように話すことができるようになり、とても感動した。



習い事の剣道を取り入れて発表する児童

<小6年 外国語>

本町では6年生の3学期に、英語で「将来の夢」や「中学校で頑張りたいこと」について原稿を見ないで発表する学習を、中学校の先生やA L Tを招いて、毎年、実施しています。

児童生徒の感想

- 僕は最初全然言えなかったし、ジェスチャーもできなかったけど、今日はできたので、中学校でもできるように日々練習したいです。
- たくさんの先生方が来られて、とても緊張したけど、自分の思ったことが全てできて良かった。練習の時は5文だったけど、本番では7文発表できて良かった。自分の好きなこと、得意なこと、夢などを中学校の先生に伝えられて良かった。
- 中学校の先生に質問することができて良かったです。先生も言っていたけど、もう少しゆっくり話したいです。みんなジェスチャーを大きくしたり、道具を準備したり、将来の夢が違ったりしたから、面白くて楽しかったです。

熊本県学力調査の結果から

◎全体的に伸びてきています！！

グラフ

今後の課題

- ◆「確かな学力の育成」の基盤となる**一人一人を大事にした学級づくり**の推進
- ◆自らの課題を踏まえた**個人の研究実践**の取組
- ◆セルフ・ペアトークによる「**自分の考えを自分の言葉で表現する力**」の育成
- ◆「**身につく**」段階を意識した取組の充実
- ◆相互の授業参観等を軸とした**小・小、小・小・中連携**の推進